



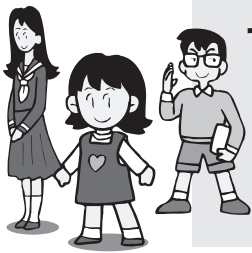
議会だより



12月定例会 “子どもの医療費助成さらに拡充”	2 ページ
議会活動報告（議会交流・研修会）	4 ページ
一般質問 3名登壇	5 ページ
村民の声「私の集落」	8 ページ

医療費助成さらに拡充

支援新制度」のための システム構築



助成対象となる子どもの年齢を、18歳までに拡大します。村内の対象者は、720人に増加する見込みです。

子どもの医療費助成に関する条例の一部を改正

消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正

これまでの班長を廃止し副隊長、副部長の職を新たに加えしました。



関川村消防団

条例の改正

平成25年12月定例会は、11月27日～12月3日の7日間の会期で行われました。
一般質問では3名の議員が登壇。専決処分の承認3件、条例の改正2件、一般会計補正予算、特別会計補正予算2件は、最終日に賛成多数で原案の通り可決しました。

専決処分

新エネルギー推進事業費
631万円増額

パワープラント関川が仮契約した機械等システムの性能を確認のため、大学教授への謝金やドイツへの渡航費用等に201万円。資材等の仮置き場の土場造成工事に300万円。発電所内の水道管路設計に130万円。



主沢地内の仮置き場

測量調査委託料

500万円増額

発電所施工に伴う道路拡張の調査費で、財源は過疎対策事業債です。

12月定例会

政策実行! 子育て支援拡大

子どもの

「子ども・子育て」

補正予算

歳入歳出
4500万円追加
総額46億4500万円

総務費

交通安全対策費

21万円増額

交通安全指導員の制服購入費です。

地域情報通信事業費

150万円増額

電柱移設等工事費の不足分です。

交通機関対策費

180万円増額

廃止路線代替によるバス運行費の補助です。

民生費

保育園管理費 852万円増額



平成24年8月に成立した「子ども・子育て関連3法」に基づく「子ども・子育て支援新制度」が、27年4月からスタートするため、システム構築委託料として2年分計上。財源は100%県の補助金です。

農林水産業費

林業振興費

200万円減額

美しい森林づくり整備事業補助金を減額。事業が実施されなかったためです。

商工労働費

観光振興対策費

20万円増額

「関川村猫ちぐら」の商標登録出願等委託料です。

土木費

道路橋りょう維持費

120万円増額

七ヶ谷郷65号線（蔵田島）法面補修工事費です。

道路橋りょう整備事業費

2200万円増額

両関四ヶ字郷81・82・83・101号線消雪パイプ更新（上関・下関）と消雪送水管接続工事費（平内新・辰田新）です。

小規模急傾斜地崩壊防止対策事業費

2000万円増額

測量調査費、工事費（幾地内）です。

「専決処分」ってなあに?

特に緊急を要するため、議会を招集する時間的余裕がないことが明らかであると認められるとき、地方公共団体の長が議会の議決・決定の前に自ら処理すること。

用語解説

財産の所得

道路改修事業実施のための土地の取得

1100万円増額

所在 大内測116番地1
地目 山林
地積 38,928㎡
契約の相手方 (有)山村開発 長岡市

請願

○免税軽油制度の継続を求める請願

○TPP交渉に関する請願

採択された、請願2件は意見書と共に関係機関に提出します。



6年2組の授業風景

関川村・小国町議会議員交流会

～ 関川小学校 ICT活用の取組み ～
～ 関川村の重点事業について ～

11月6日 関川村にて

先進的な情報機器や、ブロードバンドネットワークを使用した教育プロジェクトを実施している関川小学校の授業を参観し、学校側から学習意欲への一定効果

と課題についての説明を受けました。

その後、役場にて、佐藤忠良副村長から、当村の重点事業についての講話をお聞きしました。

副村長は、「交流会は極めて重要で、協力しあいながら相互の発展につなげなければならぬ。」と挨拶し、「The MATSU RI サミット in 関川村」の開催に至る経緯を、
・若い世代の村民がスタッフとして参加することで人材発掘と鍛錬の場ができる。

・村の元気を全国にアピールできる。
など様々な目的があつて引き受けました。
また、村が取り組んでいる未利用材を活用した木質バイオマス発電事業は、地域資源を活用し、雇用の確保と林業振興などを目的としていると説明しました。
小国町議員の方々も関川村議員にとっても意義深い交流会となりました。

議 会 活 動 報 告

新潟県町村自治に関する研修会

「町村の存亡がかかる道州制について」

11月13日 新潟県自治会館



東京大学名誉教授 大森 彌^{わたる}氏

県内町村の長・議員・課長級クラスの職員の合同研修会が行われました。
講師は東大名誉教授・大森 彌^{わたる}氏。講演の演題は、最新の道州制推進基本法案（骨子案）の検討から「町村の存亡がかかる道州制について」
特に市町村合併を前提にするかのような「道州制」の曖昧な部分や、進言個所についてなど、最初から熱い講演となりました。

また、質疑応答では、議会・佐藤友之議員の「合併しない事による、町村の人口減少が与える行政機能に
ついでに維持は可能か」に対して、大変すばらしい質疑であると感じる。また、「大変深刻な問題ではあるが、行政に携わる人には決して町村の現実から逃げてはいけない。例えば2人しか町村民がいなくなつても町村は維持できる。また答があるべきだ。」との強い回答がありました。
大森教授は、行政学・地方自治論の第一人者であり、大きな影響力を持っている方です。本籍は旧黒川村とお聞きし、身近な存在に感じました。

問

質

一

一



津野 庄衛 議員

村政12年の総括と今後の取り組みは 自立の道を選んだこと、今後も村民との対話を重視して推進

議員 村政12年間の総括と今後の取り組みについて伺う。

1. 人口減少への施策は。

村の人口は、報道機関の発表によると30年後には約3,000人になるとの試算がある。減少に歯止めをかける施策をこれまで以上に手を打たなければならぬと考える。

2. 農業施策は。

TPP問題等で農地の集約化と基盤整備が求められている。また、減反施策への対応と村としての施策。

3. 福祉施策。

4. 観光産業施策。

5. 教育・文化施策。

村長

平成13年12月に就任以来、村民との対話を重要視して、広く意見を聞くとともに、国や県との連携のもとに村の将来を展望した政策を進めてきたつもりです。

自己評価すると、うまくいったもの、壁に当たり進まなかったもの、意図した方向に進めることができず、村民の皆さんや議会の皆さんに心配をおかけしたこともあったと思います。

しかし、基本とした村民の幸せをいかに実現するかです。これからもこの基本姿勢で村政に取り組みたいと考えています。

村政の中で大きな決断の一つは、自立の道を選んだことです。直前のアンケートでは、合併必要39%合併必要無し36%。これをもって決めるわけにはいきませんでした。

国の方針が見えない状況のなかで、7,000人の村民を導く自信はありませんでした。そこで、自立への道へと思いとど

まったのです。その間、職員数の段階的削減、各種団体への補助金の削減等皆さんから協力いただきました。

以来10年、本年のアンケートでは、自立して良かった55%、自立して良くなかった16%、わからない約30%でした。かなりの村民が自立を認めたものと思っています。

そして、コミュニティ活動から育まれた地域の結集力、国際ボランティア学生協会の協力によりMATSURIサミット開催の原動力になったと思っております。

1. 人口減少施策

村の人口は、12,000人を超える最多を記録して以来、人口減少が続く、間もなく6,000人を割る状況です。

特徴として他の市町村より少子高齢化が進んでいます。

指摘のように、その施策は急務です。ポイントとなるのは若者の定着と働く場の確保です。企業誘致は厳しい状況です。

そこで、村の資源を活用した雇用の創出、林業振興を目的に木質バイオマス発電事業に取り組みんでいます。

また、結婚問題や福祉の充実、教育等も人口対策に重要であり行政全般で取り組みます。

2. 農業施策

TPP問題については反対の立場を明確にしていますが、成りに行きに注目しています。

また、減反政策を大きく転換するとしています。暮らせる所得が確保できる農業経営の実現が後継者の確保や地域農業を守るために重要です、その環境整備を進めます。

基盤整備事業では、女川左岸地域が県営事業として始まる予定です。

農政の振興対策には農家皆さんの理解と協力が必要です。これまで以上に協力いただき推進したいと思っています。

3. 福祉施策

これまでも近隣市町村に劣ら

ぬ対策を進めてきました。これからは、少子高齢化が進むなか住んで良かったと思える村づくりに努めたいと思います。

4. 観光産業施策

プレミアム商品券の発行や温泉旅館、レストラン等の振興策は成果が上がっていると思えます。

MATSURIサミットは村の知名度を上げました。

重要文化財、渡邊邸改修後の取り組みも今後の課題としていきます。

また、産業振興については行政だけでなく関係団体と共に進めたいと思います。

5. 教育・文化

学校統合は、地域住民の心よりどころを失うのではないかと指摘がありますが、教育効果を高めたものと思っています。旧校舎等の施設の有効活用、誰もが参加できる生涯学習の一層の推進に努めたいと思います。

質 問



渡辺 秀雄
議員

木質バイオマス発電事業の村民説明会を できるだけ早めに関催の予定

議員 村の事業として

では、過去最大規模（約20億円の事業費が見込まれる）の計画で進めている木質バイオマス発電に、村民も期待と不安を持ちながら注視している。

計画からすでに1

年が経過している中で、村民への状況説明が必要と思うが、

村民が最も感心を持っていてる材の確保、資金調達等本当の内容、正確な情報が伝わっていない部分が多い。

早急に説明会を実施して村民の不安を解消して欲しいが、村長の考えを伺う。

村長 私もその必要性を感じているとこ

ろです。

説明の時期については、事業資金の融資が確定した段階で開催し、村民に理解を求めたいと思っています。

政府系金融機関から融資を受ける際の判断の重要な裏付けとなるのが、発電機械の性能です。その検証視察に村民代表としてドイツに行き、大

型エンジンの研究機関（ロス

トック工科大学）、ガス化装置の設計会社、製造工場の3カ所を回り説明を受けました。同行した機械の技術的な検証をお願いしている専門家の

証をお願している。日本大学の平山和雄教授と産業総合研究所の平田悟史博士から近いうちに報告書が届く予定です。

情報不足から誤解に基づく

意見がたくさんあることも承知しています。できるだけ早く確かな情報をお伝えしていく考えです。

議員 事業計画からすでに1年半も経過している中で、村民から進捗状況はどのようになっているのか。材の確保についての不安、機械設備が故

村長3期目の総括は 近隣市町村とも友好関係にある

議員 村長3期目の総括

① 村の資源を有効活用し、農業・観光の活性化。② 地域の連帯によるむらづくりと、地域力の維持向上。③ 子育てしやすい環境づくりの3つの柱と今後の取り組み方針について伺う。

村長 ほとんどの部分が先ほどの津野議員の質問にお答え

したと重なりますので、その点は省略して、2つのことについて答弁いたします。

一つ目は、国際ボランティア学生協議会の学生が、当村へ来られたのは2004年からで、当初は、40人足らずでしたが、近年は200人近い

学生が応援に来て村を元気づけてくれています。

10月のまつりサミットでは100人近い学生が応援に駆けつけて、盛り上げてくれました。

二つ目は、自立後の近隣市町村との関係については、河川や道路、交通機関、医療福祉関係等共通する要望事項などは、国と協力しながら働きかけ、今まで通り友好的に進めています。

今、国の一部の動きの中に道州制の論議がありますが、私は否定的な立場をとっております。

り、この道州制の波の中でも沈まない関川村づくりを目指していきます。

議員 当村は人口減少、特に少子高齢化が進んでいるので、この防止策の具体的な取り組みを實行して欲しい。

村長 少子化対策で若者の定住を目的とした住宅づくり、を実施したところです。また、来年度は高校生の通学定期の助成金を検討中であり、医療関係の枠も広げたいと考えています。

般



菅原 修
議員

全村一斉防災訓練の内容は

大規模災害への対応は急務

議員 近年頻発する大規模災害に対して村としての対策は。

と考えています。

二つ目は、災害に対するソフト対策です。ソフト対策といましては、本年度から3年計画で内水氾濫のハザードマップ作成に取り組んでいます。

村長 大規模災害への村の対応ですが、基本的には関川村地域防災計画に基づいて対策を図ることとなります。大規模災害への対応は急務となつていくことから、次の点について検討を進めています。一つ目は、敏感な住民の避難体制への対応です。現在、自主防災会の組織率は79%となつていますが、組織率を100%まで高めて共助・自助対策を進めたい

三つ目は、災害に対応する人的対策です。人口の減少により消防団員の定数を減らしています。中心となる村の職員も大幅に削減しています。もし大規模な災害が発生した場合には、団員が不足する事が考えられることから、機別消防団員の設置など、大規模災害に対応できる体制についても今後考えていく予定です。また、消防団OBの活用もこの視野の中に入れていかなければならないと考えています。

議員 来年度実施する全村一斉の総合防災訓練の内容は。

村長 今年度までは各自自主防災会の避難訓練が自主的に実施をされてきましたが、来年度は全村一斉の防災訓練を実施する計画をしています。訓練の日程は、来年の10月19日に水害を想定した訓練を行う予定です。

議員 積載車以外の可搬。ポンプ車置場の一部を水防倉庫として活用できないか。

村長 先般の水害の時、菅原議員からご指摘いただいた問題もありました。それ以来、水防資材の置場についてもこれから検討しなければならぬと考えていますので、ご指摘をいただいたことに対して、これも計画の中に盛り込むよう検討させていただきます。

議員 来年度の全村一斉統合訓練と消防団の秋の演習を絡めて実施できないか。

村長 ただいまのご意見ごもつともです。その訓練の中に団員と一緒に含めることが可能かどうか検討させていただきます。当然、防災も消防団も関係してきますので、今のご意見を含めて検討いたします。



水防訓練

村民の声

私の集落

ひらの野 三千子さん
(上 関)



私は飯豊町から関川村上
関（六本杉）に嫁いで来ま
した。昭和四十二年四月で
す。落ち着く間もなく八月
にはあの羽越大水害が起き
たのです。

家財は全部流され集落の
人は高台の旅館に避難しま
した。翌朝目に映った風景
は向いの山の麓まですつか
り川になっていている様子に、
これからこの村はどうなる
のだろうと途方に暮れてい
た事を今でも忘れはしませ
ん。

あれから四十六年の歳月
が流れ、今は過去の
事など信じられない
程平和で穏やかな村
になり幸せを感じて
いる昨今です。
六本杉と言う地名
の由来は五百年も前
から残されている地
名であり、六本の杉
の古木（みの杉、杖
杉、笠杉、姥杉、つ
なぎ杉、庚申杉）が

あったそうで、現在は関川
村指定文化財にもなってい
る庚申杉と二代目笠杉の二
本だけが残っています。

私が六本杉に来た当時、
集落は二十五軒ありまし
た。集落の会合等は各家々
を回り番にしていた様に記
憶しています。その頃三十
代、四十代の男性は集落の
中心的存在でした。その人
達が六聖会を立ち上げ、六
本杉に集落センターを作る
方向で努力し、村役場勤務
の方々の助言もあつて補助
金をいた、だいて昭和五十二
年に待望の集落センターが
完成しました。

集落の自治会、PTA、
子供会そして六聖会、婦人
会等の会合も気軽に利用出
来る様になりとても便利に
なりました。
その後、六聖会は次世代
に譲り二世が後を継いでい
ます。そして六聖会OBは
笠杉会の名で夫婦の会を作
りました。六本杉婦人会は

六和会となり、会合、行事
と和やかな雰囲気でも活動し
ています。近年、六聖会の
若い世代では会員の減少に
新たな悩みが始めました。
そんな事情もあつて笠杉会
が中心となり事業や行事を
行っている現状です。
私も長い事、六本杉に暮
らして来て思つた事はまと
まりのある本当にいい集落
だと言う事に気付いたので
す。大字上関婦人会郡連合
婦人会（今はなくなりまし
た）と役員を務め沢山の事
を学ばせて頂きました。
現在は村上地区交通安全
協会の理事関川支部の女性
部に席を置き交通安全旬間
週間には路上にてパンフレ
ット、ティッシュ等配布し
交通安全の呼びかけに協力
しています。

総て家族（主人）の理解
と協力のおかげと感謝しこ
れからもささやかながらお
役に立てる様に精進して行
きたいと思ひます。

編集後記

■「ズンバ」は、ラテン音
楽を中心としたダンスエク
ササイズ。魅力は何と言っ
ても「楽しい」の一言に尽
きるだろう、陽気な気分
でたつぷりと汗を流せる。コ
ンセプトはパーティーだ。
■村のズンバ教室。インス
トラクター・小林雅子さん
（下関）のズンバはシンプ
ルだ。初心者、シニア、身
体にハンディのある人も参
加できるようにアレンジさ
れている。■有酸素運動は
ストレス解消にも効果があ
り、精神面の健康維持・増
進に大いに役立つと言う。
「今年はズンバに挑戦」も
いいかもしれない。心の榮
養になるだろう。■「たつ
た一人のあなたです」たつ
た一つの命です！県を挙げ
て、命と心の問題に取り組
んでいる。村でも「しむな
よキャンペーン」実施中
だ。 平田（ゆ）

委員 長 平田 友之
副委員 長 佐藤 庄衛
委員 津野 友之
委員 須貝 謙一
委員 渡辺 秀雄
委員 田中 廣

広報対策特別委員会